

授 業 科 目 名	保育者論	教 員 名	山下 愛実	免許・資格 との 関 係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
授 業 形 態	講義	担当形態	単独	卒 業 要 件	保育士	必修
科 目 番 号	SEN105	配当年次	1 年後期		こども音楽療育士	
単 位 数	2 単位				小幼コース	
科 目						
施 行 規 則 に 定める科目区分 又 は 事 項 等						
科 目	告示別表第 1 による教科目					
系 列	保育の本質・目的に関する科目					
一 般 目 標	保育者に求められる資質と役割、保育者の仕事内容、保育者の専門性など、保育者という仕事の概論を理解する。また、保育者の学び合う姿勢が保育者としての専門性の向上につながることを理解する。					
到 達 目 標	1. 保育者の役割と倫理について理解する。 2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。 3. 保育士の専門性について考察し、理解する。 4. 保育者の連携・協働について理解する。 5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。					
授 業 の 概 要	保育のまなざしが必要となる多様な現場の理解を目指す。保育者の役割と倫理、制度的な位置づけを理解しつつ、保育者の専門性を多面的に考察する。さらに、保育者としての専門性を向上させるために資質向上やキャリア形成に取り組んでいく必要性を理解する。 アクティブラーニングとして、振り返り、グループディスカッション、グループレポート、個人レポートなどを取り入れる。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5.教育実践力を身につけている。」「6.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	第1回：講義概要の説明（本講義の主旨および講義計画について） ・幼児教育・保育の特質を理解するとともに、保育の仕事について理解する。（目標 3） 第2回：保育士の制度的位置づけについて ・幼児教育の法的位置づけを理解する。また、幼児教育・保育施設の根拠法令とその内容を理解する。さらに、児童福祉法における保育士に関する規定を理解する。（目標 2、5） 第3回：保育士の専門性について ・さまざまな福祉の現場で活躍する保育者に焦点をあて、グループでディスカッションしながら共通点と相違点を整理し、専門性を考える。（目標 3、4） 第4-5回：保育士の専門性について ・さまざまな福祉の現場で活躍する保育者の専門性に焦点をあて、グループディスカッションを通して保育の仕事の社会的意義や専門性についての理解を深める。（目標 3、4） 第6回：子ども理解を基軸とした保育について ・実際の保育現場において、参与観察を行うことを通して、子どもと関わり、子どもの興味・関心・発達を捉える視点を養う。また、保育者による環境構成の工夫に着目し、子どもの育ちと保育者の意図の関係性を考え、子ども理解を基軸とした保育についての理解を深める。（目標 1、3） 第7回：わが国における幼児教育・保育 ・わが国における幼児教育・保育のはじまりから現在に至るまでの「指導」の捉え方の内容の変遷に着目し、多角的に「保育」のいとなみを捉え、保育の理解を深める。（目標 3、4） 第8回：子どもの人権と保育					

	・「児童の権利に関する条約」「こども基本法」をもとに、子どもの権利について考える。また、「不適切な保育」の事例をもとに、子どもの人権を尊重する保育についてグループディスカッションし、子どもの人権を尊重する保育についての理解を深める。（目標 3） 第9-11回：諸外国の特色ある保育 ・諸外国の特色ある保育について学び、それぞれの相違点と共通点、子どもの経験に着目することで、多角的に保育実践を捉える力を養う。また、子どもの主体的な探究が深まる保育とその環境について、理解を深める。（目標 1、3） 第12回：児童文化財の製作と実践 ・子どもとともに楽しめるようにするための工夫を考えながら児童文化財の製作し、子どもの心を感じられる感性と子どもの視点から物事を捉える視点を養う。（目標 3、5） 第13-14回：グループ教材研究と発表 ・子ども主体の保育に向け、グループでの教材研究を行い、探究の視点を考え、理解する。また、全体発表を通して、子どもにとっての面白さを多角的に考える。（目標 3、5） 第15回：保育者の資質向上とキャリア形成Ⅱ（目標 5） ・『保育の中の小さなこと大切なこと』を読み、子どもとの関わりにおいて保育者として大切にしたいことを考える。全体発表を通して、保育者に求められる資質・能力について理解する。 期末試験
学 生 に 対 す る 価 値	受講姿勢（グループワーク・発表等）20%、ワークシート・提出物20%、期末試験60% なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
時 間 外 の 学 習 に つ い て	（事前・事後学習として週 4 時間以上行うこと。） ・学習した内容についてプリントで再確認しておく。また、これまで配布したプリントを再読し、理解を深め、不明点は質問する。 ・講義を受けて、レポート課題があるときは、必ず次の授業で提出すること。 ・講義で使った資料やノートのファイル管理を徹底すること。 ・講義で使ったテキスト箇所を必ず復習しておくこと。
テ キ ス ト	汐見稔幸・大豆生田啓友監修（2019）『アクティベート保育学02 保育者論』ミネルヴァ書房
参 考 書 ・ 参 考 資 料 等	守永英子・保育を考える会（2001）『保育の中の小さなこと大切なこと』フレーベル館 厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』フレーベル館 文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館 『全国保育士会倫理綱領』なお適宜資料を配布する。
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	積極的に授業に参加する中で、子どもの育ちの豊かさや子どもの育ちを支える保育の面白さに触れ、子どもへの関心や保育の理解が深まることを期待します。
オフィスアワー	授業の前後の時間（メール等でアポイントを取る）